

# 横断歩道橋の新設・廃止・変更等の事務手続きマニュアル

平成29年5月改訂版

名古屋市緑政土木局 路政部道路維持課

## はじめに

本マニュアルは、各土木事務所が管理する道路施設（道路照明、道路標識、道路反射鏡、横断歩道橋、のり面、擁壁、カルバート、道路情報提供装置）に関して、工事・点検等に関わる全ての方々、すなわち各事業者並びに本庁・土木事務所の職員を対象とするものです。

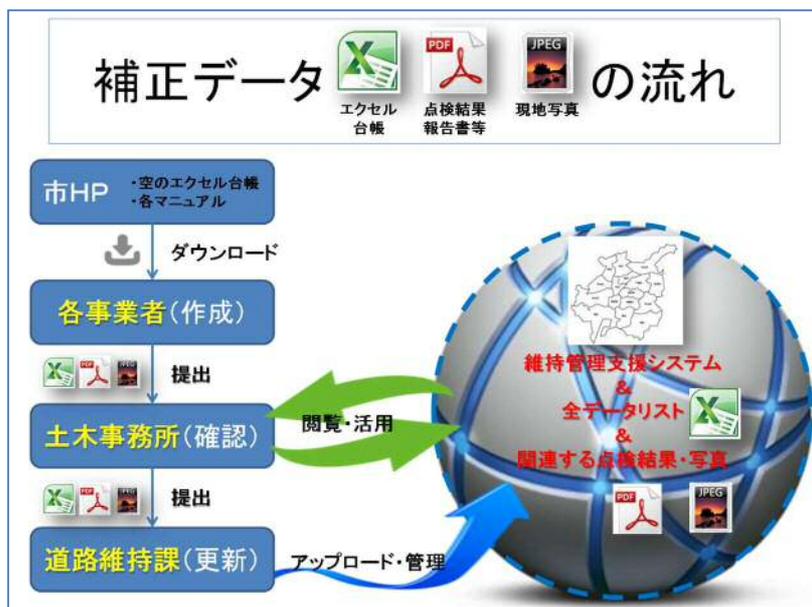
平成26年度から電子台帳化された現在の台帳管理システムは、台帳管理を一元化し、道路施設管理に大いに活用していくものとしてスタートしましたが、その後の法定点検の制度化に対応するために、この度、マニュアルの改訂を行うこととなりました。

台帳管理にあたっては、各事業者は設置・修繕工事、各点検業務委託、事故復旧・承認工事、単価契約工事等の作業完了後に、また整理組合や開発行為等の引継時に土木事務所に電子台帳の補正データを提出します。

土木事務所は提出された補正データや市職員の直営作業によるデータの内容を確認後、それらを道路維持課に提出することで電子台帳が補正されます。併せて、同様の流れで補正データに関連する各種調書、詳細な点検結果や写真データも電子データとして道路維持課に提出します。

道路維持課では、補正された電子台帳を基に維持管理支援システムにデータを反映させ、関連する電子データを一元的に保管し、台帳管理を行います。

台帳管理は、あくまでも日々の各土木事務所で取り扱う道路施設1基1基の管理がベースにあり、それらが道路維持課へ提出されることで成り立っています。本マニュアルは台帳管理の事務処理手続きを円滑に行うために、各事業者並びに本庁・土木事務所の職員が実施する各ケースの補正手続きについてとりまとめましたので、事務処理の参考に活用していただきたいと思います。



# 「言葉の定義」

1. 「道路施設」とは : 各土木事務所が管理する道路照明、道路標識、道路反射鏡、横断歩道橋、のり面、擁壁、カルバート、道路情報提供装置のこと。
2. 「新設」とは<sup>※1</sup> : 道路管理者が発注する工事により、既存の道路施設が無い所に、新しく道路施設を設置すること。
3. 「引継」とは<sup>※1</sup> : 整理組合や開発行為等により、新しく道路施設を設置し、それを道路管理者が引継ぐこと。
4. 「更新」とは<sup>※1、※4</sup> : 既存の道路施設を“全て撤去”した後に、同じ箇所になく新しくそれと同等の道路施設を設置すること。並行して“撤去”に係る「廃止」も忘れずに行う。
5. 「廃止」とは<sup>※2、※4</sup> : 既存の道路施設を“全て撤去”すること。
6. 「変更（修繕）」とは<sup>※3</sup> : 既存の道路施設の一部を取り替えたり、補修・修繕すること。
7. 「変更（移設）」とは<sup>※3</sup> : 既存の道路施設本体を、そのまま異なる箇所に移して設置すること。
8. 「変更（錯誤）」とは<sup>※3</sup> : 既存の道路施設と電子台帳の内容に相違（設置箇所の間違い、各種記録の間違い等）が発見された場合に電子台帳を修正すること。
9. 「変更（点検）」とは<sup>※3</sup> : 既存の道路施設の点検を実施し、その結果を電子台帳に記録すること。

## 【備考】

※1 上記2. ～4. は固有IDを道路維持課にて付与します。

※2 上記5. では固有IDを廃止し、今後の使用も禁止します。

※3 上記6. ～9. は既存の固有IDに対して、データ内容の変更をします。

※4 上記4. 「更新」に際しては、5. 「廃止」を並行して実施します。

## 1. 補正区分毎の補正データの提出について

下記の表を参考に必要なシステム補正資料を土木事務所担当者（監督員）へ提出して下さい。土木事務所担当者は、内容を確認の上、道路維持課担当者へ提出して下さい。

提出データのファイル名、ファイル形式、まとめ方はP13～14を参照して下さい。

表-1 システム補正資料

補正区分	エクセル 台帳	横断歩道橋 台帳※1	点検・措置 記録表※1	竣工図 (構造図)	写真	位置図
新設・引継・更新	○	○	△※2	○	△※3	△※3
廃止	○	-	-	-	-	-
変更	修繕	○	○	○※4	△※5	△※3
	移設	○	○	-	△※5	△※3
	錯誤	○	○	-	△※5	△※3
	点検	○	○	○	-	-

※1横断歩道橋台帳及び点検調書の様式(例)は、P17～18を参照。横断歩道橋台帳は、

修繕、改築、錯誤、点検の場合には既存の横断歩道橋台帳を修正して提出する。

※2引継の場合で土木事務所担当者(監督員)から指示がある場合については提出。

※3横断歩道橋台帳に記載があれば、提出不要。

※4構造の変更を伴う修繕(改築)の場合については提出。

※5土木事務所担当者(監督員)から指示がある場合については提出。

## 2. エクセル台帳

エクセル台帳とは、諸元データをはじめ、位置（座標）データ、修繕データ、点検データなどがリスト項目となったエクセルで作成された電子台帳ファイルです。

エクセル台帳には、必須入力項目と補正するデータ項目のみを入力して土木事務所担当者（監督員）に提出します。（すべての項目を入力する必要はありません。）

補正区分によって記入する項目が異なりますので、P. 15～16を参照してください。

## 3. エクセル台帳の記入方法

### A欄：補正区分

「新設」、「引継」、「更新」、「修繕」（塗装、舗装、改築を含む）、「廃止」、「移設」、「錯誤」、「点検」のうち該当するものから選択する。更新の場合は「廃止」＋「更新」として補正データの提出が必要となります。

### B欄：年月日

補正区分ごとに、表－2を参考に記入すべき日付を西暦で記入する記入すべき日付が不明な場合は、契約工期（業務期間）がある場合は完了日、無い場合はエクセル台帳を提出した日付を記入する。

例) 2014/4/1 ×平成26年4月1日 ×20140401 ×260401 ×2014.4.1 ×H26.4.1

表－2 補正区分毎の記入すべき日付一覧

補正区分	記入すべき日付
「新設」	歩道橋の設置工事が完了した日付(G欄と同じ日付)
「引継」	歩道橋の引継を受けた日付
「更新」	歩道橋の更新工事が完了した日付(G欄と同じ日付)
「修繕」	歩道橋の修繕、塗装、改築等の工事が完了した日付(AQ欄と同じ日付)
「廃止」	歩道橋の撤去工事が完了した日付(BP欄と同じ日付)
「移設」	歩道橋の移設工事が完了した日付
「錯誤」	歩道橋の錯誤が判明した日付
「点検」	歩道橋の点検を実施した日付(BR欄と同じ日付)

### C欄：固有ID

固有ID「歩道橋のH＋2桁の区番号＋2桁の番号」を記入する。

例) H0101→千種区の01番の横断歩道橋と判別する。

### D欄：土木事務所

横断歩道橋を管理する土木事務所を選択する。

### E欄：横断歩道橋名

横断歩道橋の名称（漢字）を記入する。

F欄：かな

横断歩道橋名の「よみがな」を記入する。

G欄：設置年月日

横断歩道橋の設置年月日を記入する。

例) 2014/4/1 ×平成26年4月1日 ×20140401 ×260401 ×2014.4.1 ×H26.4.1

H欄：管理者

横断歩道橋の管理者を記入する。

例) 市道路管理者、市道路管理者（覚書）、住宅都市局

※原則、「市道路管理者」になるが、「住宅都市局から引き継いでないもの」、「市の所有物であるが、覚書を締結し日常管理、補修、改築を民間企業がするもの」などもある。

I欄：適用示方書

横断歩道橋を設置した際に適用した示方書名を記入する。

例) 立体横断施設技術基準（1978）、歩道橋指針（1965）

J欄：設置場所

横断歩道橋が設置されている町名を記入する。区名は記入しない。町名を跨いでいる場合は、半角、（コンマ）で区切って記入する。

例) 「〇〇〇三丁目」「〇〇〇一丁目、〇〇二丁目」

K・L欄：緯度・経度

緯度・経度は、維持管理支援システムにおける横断歩道橋位置図の元データとなるため、「横断部の中心点」または「設置されている交差点の中心点」など、地図上に配置されたときに横断歩道橋の中心点を示すような位置とすること。

緯度・経度は、世界測地系のDMS形式（ $dd^{\circ} mm' ss. s''$ ）で、「0.1」単位まで記入する。

緯度の例)  $35^{\circ} 10' 48.8''$  ×35度10分48.8秒 ×35.10488 ×日本測地系

経度の例)  $136^{\circ} 57' 21.4''$  ×136度57分21.4秒 ×136.57214 ×日本測地系

M欄：関連学区名

横断歩道橋が設置されている学区名を記入する。横断歩道橋が複数の学区に跨って設置されている場合は半角、（コンマ）で区切って記入する。

N欄：用途

横断歩道橋の用途を記入する。通学路に指定されているものは「通学路」、特別の用途がないものは「一般」等を記入する。

例：一般、通学路、商業施設連絡、駅連絡 等

O欄：交差条件

交差条件を記入する。横断歩道橋が複数の施設に跨って設置されている場合は半角、（コンマ）で区切って記入する。

例) 市管理道路、国管理道路、名高速管理道路、JR、JR貨物、名鉄 等

P欄：緊急輸送道路

桁下の道路の緊急輸送道路の区分に応じて、「1次」、「2次」、「指定なし」のうち該当す

るものから選択する。

**Q欄：道路種別**

横断歩道橋の道路認定について、「高速自動車道」、「一般国道（指定区間）」、「一般国道（指定区間外）」、「主要県道」、「一般県道」、「主要市道」、「一般市道（1級）」、「一般市道（2級）」、「一般市道（その他）」、「自転車歩行者専用道」、「未認定道路（公有道路）」、「その他」のうち該当するものを選択する。交差点等で複数路線に跨る場合は上位路線を選択する。

**R欄：路線名**

認定路線名を記入する。認定されていない路線の場合は「未認定」と記入する。

**S欄：道路番号**

道路番号を記入する。未認定の場合は「未認定」と記入する。

**T欄：道路幅員等**

設置位置での道路の幅員（m）（最大値）を小数点第一位まで記入する。ただし、歩道橋が交差している施設が、鉄道施設等の他の管理者の管理施設の場合には、交差する施設の延長を同様に記入する。

**U欄：車線数**

設置位置での道路の車線数の最大値を記入する。相互通行部両側を合わせて考慮する。（一車線ずつの相互通行は2となる。）

**V欄：高さ指定道路**

桁下道路が高さ指定道路の場合に「高さ指定」、「指定なし」のうち該当するものを選択する。高さ指定道路については関東地方整備局のホームページにより確認することができる。

**W欄：設置施工者**

設置工事の施工者名（会社名）を記入する。

**X欄：構造**

横断歩道橋の橋種、上部工形式等の構造を記入する。

例) 鋼橋、I桁、中路式の場合：鋼、I、中

**Y欄：桁高**

主桁の桁高（m）を小数点第一位まで記入する。

**Z欄：鋼重**

横断歩道橋の鋼材の総重量（t）を小数点第一位まで記入する。

**AA欄：橋長**

横断歩道橋の橋長（m）を小数点第一位まで記入する。

**AB欄：支間長**

横断歩道橋の支間長（m）を小数点第一位まで記入する。複数ある場合は、半角，（コンマ）で区切って記入する。

**AC欄：橋幅**

横断歩道橋の橋幅（m）を小数点第一位まで記入する。複数ある場合は、半角，（コンマ）で区切って記入する。

AD欄：桁下高さ

横断歩道橋の桁下高（m）を小数点第一位まで記入する。

AE欄：階段勾配

横断歩道橋の階段勾配（%）を小数点第一位まで記入する。複数ある場合は、半角，（コンマ）で区切って記入する。

AF欄：斜路の有無

斜路の有無を選択する。

AG欄：斜路勾配

横断歩道橋の斜路の勾配（%）を小数点第一位まで記入する。複数ある場合は、半角，（コンマ）で区切って記入する。

AH欄：階段幅

階段の幅（m）を小数点第一位まで記入する。複数ある場合は、半角，（コンマ）で区切って記入する。

AI欄：斜路幅

斜路の幅（m）を小数点第一位まで記入する。複数ある場合は、半角，（コンマ）で区切って記入する。

AJ欄：エレベータ数

エレベータの基数（基）を記入する。なければ、「0」を記入する。

AK欄：手すりの段数

手すりの段数を選択する。ない場合は「なし」を選択する。

AL欄：添架照明数

添架されている照明数（基数）を記入する。ない場合は「0」を記入する。

AM欄：添架標識数

添架されている標識数（基数）を記入する。本市管理の標識のみの基数を記入し、公安委員会や高速公社管理のものは含まない。ない場合は「0」を記入する。

AN欄：添架物件

添架されているものを具体的にすべて記入する。添架されているものが本市管理の道路照明など固有IDを有しているものは、固有IDを記入する。ここで、本マニュアルが意味する「固有ID」とは、本市が管理する表-3に示す構造物に付与されたものとする。添架物件がない場合は「なし」と記入する。また、添架されているものが複数ある場合には半角，（コンマ）で区切って記入し、固有IDのあるものを優先して記入すること。

（例：L0101000, S0102000, 車両用信号機, 歩行者用信号機, 規制標識 等）

表-3 固有IDの例

構造物	固有IDの例
道路標識	S0200123
道路照明	L0500567
道路反射鏡	m0800032
歩道橋	H1102
道路情報提供装置	D1400234
カルバート	C0100200
のり面・擁壁	N1600252

AO欄：化粧板の有無

横断歩道橋に設置されている化粧板の有無を選択する。

AP欄：高力ボルトF11T使用の有無

横断歩道橋添接板に取り付けられている高力ボルトF11Tの使用の有無を選択する。

AQ欄：修繕等年月日

修繕、塗装、改築等の工事が完了した日付を記入する。

例) 2014/4/1 ×平成26年4月1日 ×20140401 ×260401 ×2014.4.1 ×H26.4.1

AR欄：工事件名

管理者工事の場合は、設置工事又は修繕工事等の件名を記入し、管理者工事以外の場合は「承認工事」、「直営工事」、「区画整理」、「開発行為」、「その他」（寄附等）のうち、該当するものを記入する。

AS欄：施工者名

修繕工事等の施工者名（会社名）を記入する。AR欄で「直営工事」と記入の場合は「職員」と記入する。

AT欄：工事費

工事に要した費用を千円まるめで記入する。

AU欄：最新舗装年月日

最新の舗装（修繕）工事が完了した日付を記入する。

例) 2014/4/1 ×平成26年4月1日 ×20140401 ×260401 ×2014.4.1 ×H26.4.1

AV欄：舗装構成

舗装の構成を記入する。横断部→（横）、階段部→（階）など部位によって構成が変わる場合には（）で部位の1番目の文字で囲みわかりやすくし、半角、（コンマ）で区切って記入すること。

例)（横）敷モル20mm+薄層カラー20mm,（階）敷モル20mm+型枠式カラータイル20mm 等

AW欄：舗装面積横断部

横断歩道橋の横断部の面積（m<sup>2</sup>）を小数点第一位まで記入する。

AX欄：舗装面積階段部

横断歩道橋の階段部の面積（m<sup>2</sup>）を小数点第一位まで記入する。

A Y 欄：舗装面積全体

横断歩道橋全体の舗装面積（m<sup>2</sup>）を記入する。

A Z 欄：塗装系

横断歩道橋の塗装系の種別を記入する。

例） Rc-3 系、 A 系 等

B A 欄：全体塗装面積

横断歩道橋の全塗装面積（m<sup>2</sup>）を記入する。

B B 欄：最新塗装年月日

最新の塗装年月日を記入する。

例） 2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

B C 欄：ベースカラーの色見本番号

桁等に塗装されているベースカラーの塗装色を塗料用標準色見本帳（日本塗料工業会）による分類を半角英数字で記入する。

（例：HN70、H07-30F 等）

B D 欄：ベースカラーの塗装面積

桁等に塗装されているベースカラーの塗装面積（m<sup>2</sup>）を記入する。

B E 欄：アクセントカラーの色見本番号

高欄等に塗装されているベースカラーの塗装色を塗料用標準色見本帳（日本塗料工業会）による分類を半角英数字で記入する。

（例：HN70、H07-30F 等）

B F 欄：アクセントカラーの塗装面積

高欄等に塗装されているアクセントカラーの塗装面積（m<sup>2</sup>）を記入する。

B G 欄：橋脚等の色見本番号

橋脚又はその他部材がベースカラーまたはアクセントカラー以外の塗装色で塗装されている場合にその塗装色の塗料用標準色見本帳（日本塗料工業会）による分類を半角英数字で記入する。ベースカラーまたはアクセントカラーと同色の場合には入力は不要とする。

（例：HN70、H07-30F 等）

B H 欄：橋脚等の塗装面積

橋脚その他部材がベースカラーまたはアクセントカラー以外の塗装色で塗装されている場合にその塗装色の塗装面積（m<sup>2</sup>）を記入する。ベースカラーまたはアクセントカラーと同色の場合には入力は不要とする。

B I 欄：張紙防止塗装面積

張紙防止塗装の面積（m<sup>2</sup>）を記入する。

B J 欄：ネーミングライツ愛称表示

ネーミングライツパートナー契約に基づき現地に表記されている横断歩道橋愛称を記入する。

B K 欄：ネーミングライツパートナー名

ネーミングライツパートナー契約の相手方を記入する。

B L 欄：愛称標示開始年月日

ネーミングライツパートナー契約の契約開始日を記入する。

例) 2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

B M 欄：愛称標示終了年月日

ネーミングライツパートナー契約の契約終了日を記入する。

例) 2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

B N 欄：改築内容

改築（構造の変更を伴う修繕）の内容を記入する。

例：階段の斜路化、高欄嵩上、手摺の新築、改良 等

B O 欄：その他修繕内容

舗装、塗装、改築以外の修繕をした場合に内容を記入する。複数ある場合には半角、（コンマ）で区切って記入すること。

例) 防鳩ネット修繕, ボルト交換, 標識板取替, 橋脚基部修繕, 断面修復, 灯具替え 等

B P 欄：廃止年月日

横断歩道橋の撤去工事の完了した日付を記入する。

例) 2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

B Q 欄：廃止理由

横断歩道橋を撤去した理由を記入する。

B R 欄：点検年月日

点検の実施年月日を記入する。複数日に跨って点検をした場合には点検を完了した日付を記入する。

点検調書（P 18 を参照）を作成した場合は、点検調書に記載した点検の実施年月日を西暦で記入する。

例) 2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

B S 欄：点検種別

点検種別について表－4に従い該当するものを選択する。

表－4 点検種別の例

点検種別	定 義
定期点検	5年毎に定期的に行う点検
通常点検	通常点検マニュアルに基づく点検又は道路パトロール等で行う点検
初期点検	設置後1年以内に行う点検
緊急点検	緊急に行う点検
詳細点検	定期点検等により異常が見つかり、さらに詳細な点検を実施する必要がある場合に行う点検

B T欄：点検要領

点検に使用した要領等の名称を記入する。

例) 名古屋市横断橋定期点検マニュアル (H27.7.1) など

B U欄：業務件名

点検業務等の件名を記入する。本市職員による点検の場合は「直営業務」と記入する。

B V欄：点検者名

点検業務の受注者名 (会社名) を記入する。本市職員による点検の場合は「職員」と記入する。

B W欄～C F欄：健全度区分【全体】～健全度区分【その他】

点検又は修繕等に基づいた横断歩道橋全体を始め、上部工 (主桁)、上部工 (横桁)、上部工 (床版等)、下部工、階段、排水、付属工、橋面、その他の部材について、健全度区分を表-5に従い該当するものを選択する。

表-5 健全度区分と定義

健全度区分	定義
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

参考資料:トンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示

(平成26年国土交通省告示第426号)

C G欄：備考

その他、補足説明等が必要な場合に記入する。

※本マニュアルに記載のないこと、その他疑義が生じた場合は、土木事務所担当者 (監督員) と協議すること。

## 4. 提出データのファイル名、フォルダ構成等について

(1) 新設・引継・更新の場合（固有 ID が無いケース）

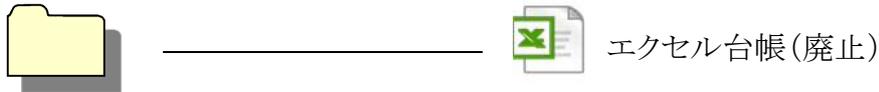


※各ファイルの項目は必ず「\_」（アンダーバー）で区切ること。

日付は yyyyymmdd 形式（西暦で8桁表示）とし、Excel台帳「B欄」と合わせること。

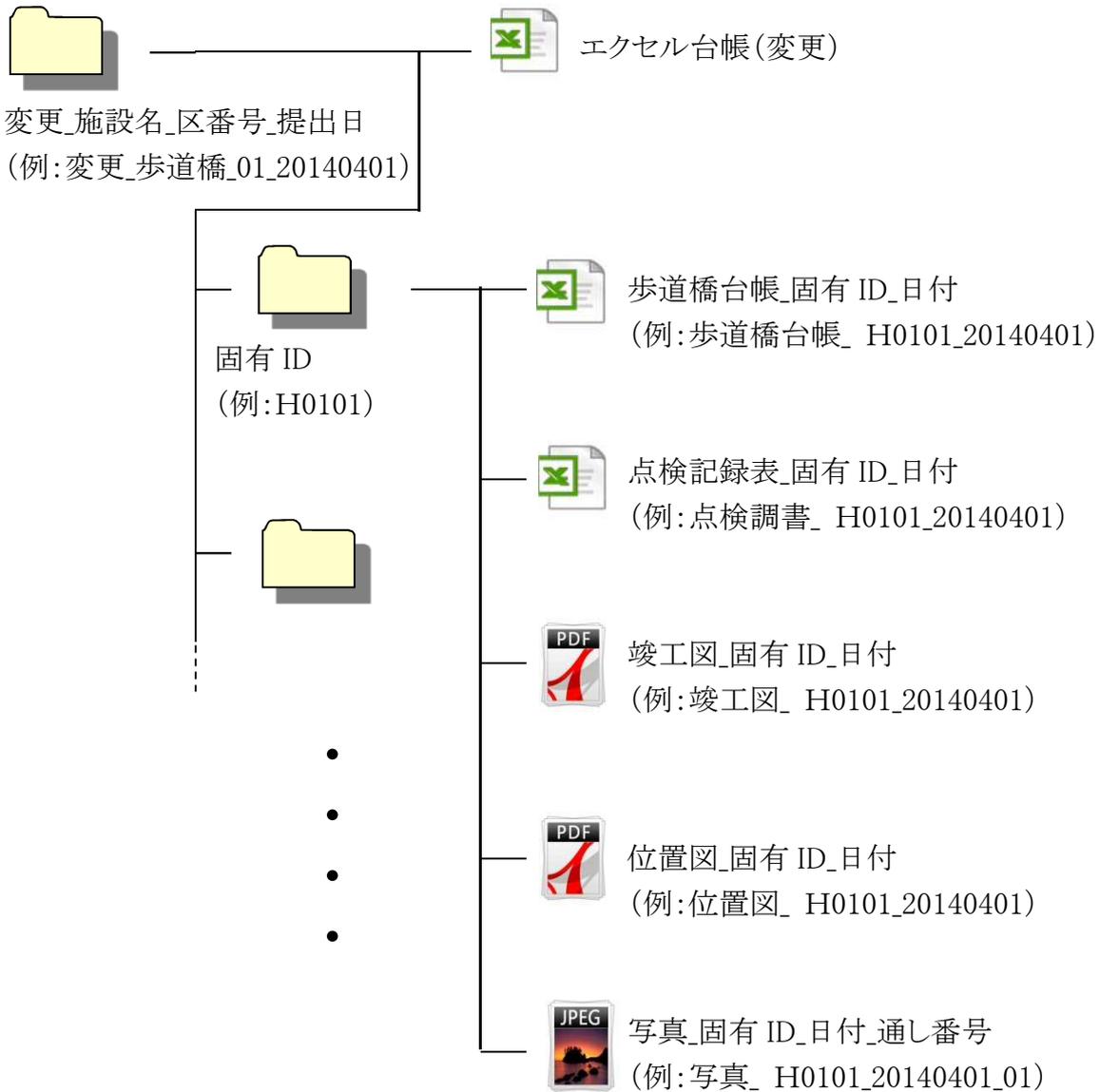
写真が複数ある場合にはファイル名の最後にファイル名+\_通し番号を振ること。

(2) 廃止の場合 (固有 ID が有るケース)



廃止\_施設名\_区番号\_提出日  
(例:廃止\_歩道橋\_01\_20140401)

(3) 修繕・移設・錯誤・点検の場合 (固有 ID が有るケース)



※各ファイルの項目は必ず「\_」(アンダーバー)で区切ること。

日付は yyyymmdd 形式 (西暦で8桁表示) とし、エクセル台帳「B 欄」と合わせること。

写真が複数ある場合にはファイル名の最後にファイル名+\_通し番号を振ること。

## 5. エクセル台帳の記載項目

入力が必要な項目      ◎必須、○該当する項目があれば必須

△必要に応じて記入（既存データに誤りがある場合や空欄の場合等）

－入力不要（空欄にしておく項目）

項目	新設	引継	更新	廃止	変更			
					修繕	移設	錯誤	点検
A	補正区分	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B	年月日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
C	固有ID	－	－	－	◎	◎	◎	◎
D	土木事務所	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
E	横断歩道橋名	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F	かな	◎	◎	◎	－	△	△	△
G	設置年月日	◎	◎	◎	－	△	△	△
H	管理者	◎	◎	◎	－	△	△	△
I	適用示方書	◎	◎	◎	－	－	△	△
J	設置場所	◎	◎	◎	－	△	○	△
K	緯度	◎	◎	◎	－	△	◎	△
L	経度	◎	◎	◎	－	△	◎	△
M	関連学区名	◎	◎	◎	－	－	△	△
N	用途	◎	◎	◎	－	△	△	△
O	交差条件	◎	◎	◎	－	△	△	△
P	緊急輸送道路	◎	◎	◎	－	△	△	△
Q	道路種別	◎	◎	◎	－	△	△	△
R	路線名	◎	◎	◎	－	－	△	△
S	道路番号	◎	◎	◎	－	△	△	△
T	道路幅員等	◎	◎	◎	－	△	△	△
U	車線数	◎	◎	◎	－	△	△	△
V	高さ指定道路	◎	◎	◎	－	△	△	△
W	設置施工者	◎	◎	◎	－	△	△	△
X	構造	◎	◎	◎	－	△	△	△
Y	桁高	◎	◎	◎	－	△	△	△
Z	鋼重	◎	◎	◎	－	△	△	△
AA	橋長	◎	◎	◎	－	△	△	△
AB	支間長	◎	◎	◎	－	△	△	△
AC	橋幅	◎	◎	◎	－	△	△	△
AD	桁下高さ	◎	◎	◎	－	△	△	△
AE	階段勾配	◎	◎	◎	－	△	△	△
AF	斜路の有無	◎	◎	◎	－	△	△	△
AG	斜路勾配	○	○	○	－	△	△	△
AH	階段幅	◎	◎	◎	－	△	△	△
AI	斜路幅	◎	◎	◎	－	△	△	△
AJ	エレベータ数	◎	◎	◎	－	△	△	△
AK	手すりの段数	◎	◎	◎	－	△	△	△
AL	添架照明数	○	○	○	－	△	△	△
AM	添架標識数	○	○	○	－	△	△	△
AN	添架物件	○	○	○	－	△	△	△
AO	化粧板の有無	◎	◎	◎	－	○	△	△
AP	高力ボルト F11T 使用の有無	◎	◎	◎	－	○	△	△

項目	新設	引継	更新	廃止	変更				
					修繕	移設	錯誤	点検	
AQ	修繕等年月日	○	○	○	—	◎	◎	△	—
AR	工事件名	◎	◎	◎	—	◎	◎	△	—
AS	施工者名	—	—	—	—	◎	◎	△	—
AT	工事費	◎	◎	◎	—	◎	◎	△	—
AU	最新舗装年月日	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
AV	舗装構成	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
AW	舗装面積横断部	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
AX	舗装面積階段部	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
AY	舗装面積全体	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
AZ	塗装系	◎	◎	◎	—	○	△	△	△
BA	全体塗装面積	◎	◎	◎	—	○	△	△	△
BB	最新塗装年月日	◎	◎	◎	—	○	△	△	△
BC	ベースカラーの色見本番号	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
BD	ベースカラーの塗装面積	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
BE	アクセントカラーの色見本番号	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
BF	アクセントカラーの塗装面積	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
BG	橋脚等の色見本番号	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
BH	橋脚等の塗装面積	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
BI	張紙防止塗装面積	◎	◎	◎	—	○	△	△	—
BJ	ネーミングライツ愛称表示	○	○	○	—	○	△	△	△
BK	ネーミングライツパートナー名	○	○	○	—	○	△	△	△
BL	愛称標示開始年月日	○	○	○	—	—	—	—	—
BM	愛称標示終了年月日	○	○	○	—	—	—	—	—
BN	改築内容	—	—	—	—	○	△	△	—
BO	その他修繕内容	—	—	—	—	○	—	△	—
BP	廃止年月日	—	—	—	◎	—	—	△	—
BQ	廃止理由	—	—	—	◎	—	—	△	—
BR	点検年月日	—	○	—	—	○	—	△	◎
BS	点検種別	—	○	—	—	○	—	△	◎
BT	点検要領	—	○	—	—	○	—	△	◎
BU	業務件名	—	○	—	—	○	—	△	◎
BV	点検者名	—	○	—	—	○	—	△	◎
BW	健全度区分【全体】	—	○	—	—	○	—	△	◎
BX	健全度区分【上部工(主桁)】	—	○	—	—	○	—	△	◎
BY	健全度区分【上部工(横桁)】	—	○	—	—	○	—	△	◎
BZ	健全度区分【上部工(床版等)】	—	○	—	—	○	—	△	◎
CA	健全度区分【下部工】	—	○	—	—	○	—	△	◎
CB	健全度区分【階段】	—	○	—	—	○	—	△	◎
CC	健全度区分【排水】	—	○	—	—	○	—	△	◎
CD	健全度区分【付属工】	—	○	—	—	○	—	△	◎
CE	健全度区分【橋面】	—	○	—	—	○	—	△	◎
CF	健全度区分【その他】	—	○	—	—	○	—	△	◎
CG	備考	△	△	△	△	△	△	△	△

## 6. 参考資料

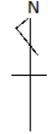
### (1) 横断歩道橋台帳 (参考様式)

(表-8)

#### 横断歩道橋台帳

縮小版番号	(A-4版)
整理番号	区番号: 歩道橋番号

土木事務所
-------

ふりがな 橋名				道路種別・路線名 (緊急輸送道路種別)			
所在地		名古屋市 区		植書区分(橋岸からの距離)		有 ( m)、無	
設計示方書		(S )		竣工年月		昭和 年 月(西暦 年)	
橋長	m	径間割	m	橋面積	m <sup>2</sup>	通学路	有・無 化粧板 有・無
階段状態	方向	方向	階段勾配	i= %	階段面積		
斜路状態	方向	方向	斜路勾配	i= %	斜路面積	m <sup>2</sup>	
幅員構成	橋梁部	m	階段部	m	斜路部	m	
構造形式	橋種	上部工形式		支持形式	下部工形式	基礎形式	
	1、鋼橋	1、I 桁	1、合成桁	1、上路式	1、単純	1、単柱式	1、直接基礎
	2、RC 橋	2、T 桁	2、非合成桁	2、中路式	2、連続	2、ラーメン式	2、くい基礎
	3、PC 橋	3、箱 桁	3、プレテン桁	3、下路式	3、ゲルバー	3、その他	3、その他
	4、その他	4、その他	4、その他	4、その他	4、その他	( )	( )
( )	( )	( )	( )	( )			
舗装形式	橋梁部	(t= mm)		階段、斜路部	(t= mm)		
高欄の材料との高さ	製 ( m)	目隠板	有 ( m <sup>2</sup> )、無	落橋防止	有、無		
高力ボルト(種別)	有 ( )、無	裾隠し板	有 ( m <sup>2</sup> )、無	手摺	有、無 (407771) 有・無		
道路標識	有 ( 基)、無	照明施設	有 ( 基)、無	総鋼重			
EV	有 ( 基)・無	ES	有 ( 基)・無	視覚障害者誘導ブロック	有・無		
クレン種別	一 種	塗装面積	m <sup>2</sup> (高欄部除く) m <sup>2</sup> (高欄部)	塗装材料	点検・補修履歴の備考欄を参照		
	塗装年度	工事内容	修繕年度	工事内容	点検年度	点検内容	
位置図							
				ネーミングライツ	年 月～ 年 月	—	
				ネーミングライツ	年 月～ 年 月	—	
							
台帳作成年月	年 月						
修正年月	年 月						
修正年月	年 月						

(1) 点検調書 (参考様式)

点検調書 (その1) 横断歩道橋の諸元と総合検査結果										緯度		横断歩道橋ID	
フリガナ 橋梁名		路線名		管轄		管理番号		事務所		調査更新年月日		平成 年 月 日	
所在地		距離標		点検員		最新点検年月日		平成 年 月 日		緯度		経度	
供用年月日		橋長		活荷重・等級		等橋		適用示方書		調査年			
上部構造形式		幅員		全幅員		地覆幅		歩道幅		車道幅・車線		交通量	
下部構造形式		有効幅員										昼間12時間	
基礎形式		備考								交通条件		大型混入率	
										調査条件		荷重制限	
												%	
												t	
健全度 (横断歩道橋単位)													
総合検査結果													

別紙3 点検表記録様式

様式(その1)

横断歩道橋名・所在地・管理者名等

横断歩道橋名		路線名		所在地		設置位置		緯度		経度	
管理者名		点検実施年月日		点検員		調査実施年月日		調査員※1			
代替路の有無		緊急輸送道路		占有物件(名称)							

部材単位の健全性の診断(部材毎に最も悪い判定区分を記入)

点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	措置後の判定区分	変状の種類	措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁					
	横桁					
	床版等					
下部構造						
階段部						
その他						

横断歩道橋毎の健全性の診断(判定区分I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次※2	橋長(m)	通路幅員(m)

※1: 調査員は、非破壊検査(板厚調査、き裂調査等)を実施した請負者等を記入する。  
 ※2: 架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。